

令和元年度 第4回社会教育委員会議 概要

日 時： 令和元年 11 月 26 日（火）午後 2 時 30 分～4 時 30 分

場 所： 逗子市役所 5 階 第 4 会議室

出 席： 角田委員（議長）、津留崎委員（副議長）、長坂委員、桑原委員、堀江委員、
山田委員、佐藤委員、東委員

欠 席： 松井委員、吉川委員

事務局： 社会教育課 橋本課長、黒川係長、匂坂、中村、内山（記録者）

傍聴者： なし

資 料：

- 1 教育委員会定例会会議録（令和元年 6 月、7 月）
- 2 令和元年度第 3 回社会教育委員会議概要（案）
 - ・ 令和元年度社会教育課主催講座実施計画（11 月 25 日現在）
 - ・ 逗子市立図書館 平成 30 年活動報告

●開会

●資料確認

●報告事項（1）神奈川県社会教育委員連絡協議会 理事会（10 月 18 日）

○委：第 2 回の理事会。今年度の上半期の事業報告と、今後の事業予定について。

来年度の事業計画案についても話があったが、例年通りである。地区研究会は、葉山町（令和 2 年 11 月 20 日）と山北町（令和 3 年 2 月）にて開催。研究大会は新潟県。

●報告事項（2）まちづくりネットワーク会議（10 月 19 日）

○委：市長による市政の説明、住民自治協議会の活動報告など。

●報告事項（3）神奈川県社会教育委員連絡協議会 研究会（11月14日）

- 委：小田原市での開催。テーマは「まなびがつなぐまちづくり～小田原ならではの地域資源を活かして」であった。大変よい研究会で、小田原は仕組みづくりがきちんとできていると感じた。人権講話は、里親の体験談や里親の役割についてであった。養子縁組だけでなく、家庭体験のためのショートステイも行える。
- 事例発表の「子どものまなび」では、市内全小学校25校に開設されている放課後子ども教室が紹介された。（学童は別途行われている。）元教諭やコーディネーターにより、学習と遊びの支援が積極的に行われている。また、「ふるさと歴史かるた」も、子どもたちから遊びながら地域の特色や歴史などが学べ、郷土愛を育むものとして興味深かった。一方「大人のまなび」としては、市民が講師となり市内全域を学びの場とするキャンパスおだわら（2011年～）。さらに昨年2年過程の小田原市民学校がスタートしている。1年目はおだわら学と称した地域の魅力を学ぶ基礎課程で、2年目は8分野の中からテーマを選択して深く学んでいく。人材を育てっぱなしにせず活動の場をととのえ、郷土愛を持った人が活動することで地域を活性化することを目指している。
- 委：「社会教育の役割を再確認する」をテーマとした基調講演があった。社会教育のとらえ方が『社会教育とは成人教育と地域教育である。成人教育とは学校教育以外のもの、学校教育を受けられなかった人を対象とするもの。日本では地域教育がメインである。互いの知恵を交換し合い気づき合うことが地域教育であり、社会教育である』という切り口だった。

●報告事項（4）教育委員会定例会について

- 事：資料1参照。社会教育関連の議題は特になかった。教育委員の交代があり、6月をもって横地委員が退任、若林委員が新任となった。
- 事：11月の定例会において、社会教育委員の再任、新任について承認を得ている。

●議題（1）社会教育課所管講座事業について

- 事：今年度のすべての講座が日程も含め決定した。これまでも社会教育委員からの意見を講座実施に際し可能な限り反映させる方向で行ってきたが、今後への提案として、社会教育委員会議の中で講座を企画できたらと考えている。調整や運営は事務局で行う。先ほど小田原市の話があったが、逗子市の社会教育推進プランの中でも、地域の課題を解決できる人材育成が最大の課題である。また今年度は市として「元気な高齢者プロジェクト」を掲げており、社会教育課としてもそれを意図し開催している講座もある。まず枠を設けず案を出し合い、実行性も含め検討したいと考えているが如何か。
- 委：本来は諮問があって社会教育委員が動くというものであった。5年前に鎌倉で行われた研究大会の分科会でも、各市の委員からは、市からは諮問もなく、何か提案をしてもよい反応が得られないという声が多くあがっていた。その直後、逗子市においては社会教育推進プランの制定が決まり、その策定に社会教育委員会議も大変充実した。現在はその評価に時間をかけている。評価することも大事だが、プランも大切である。逗子にいま何が必要なのかということを各自が持ち寄って、検討するのは大変よいことだと思う。
- 委：委員もそれぞれ自分たちで活動をしている、その関連でもよいだろう。
- 事：これまでに個々の意見もいただいているが、今回の提案はひとつの完成形としての企画をたてるということ。
- 委：このようなテーマでやってはどうか、というものでもよいのではないか。
- 委：社会教育委員として半分以上はプラン等の評価をしており、先に進める場がなかったので、とてもよい機会だと考える。
- 事：開催時期は、企画ができた段階で他の講座等とも調整しながら、実現可能な範囲で実施したい。
- 事：来年度に向けては、前回会議で配布した資料の講座計画通りに予算要求している。その中には、予算が通れば例年通り継続して開催する講座もある。
- 委：3月開催の第5回会議で話し合えるよう、事務局が用意するフォーマットに案を記入のうえ、可能な限り会議前に提出する。

●議題（2）第3回社会教育委員会議概要（9月17日）（案）について

○事：資料2参照。意見等あれば、11月末日までに連絡いただきたい。

●その他

○事務局より

郷土資料館の機能を廃止する。都市公園条例の一部となっているので、その改正についての市民説明会を11月に行った。12月2日から1月9日までパブリックコメントをとる。条例の改正案は2月の議会に提出。建物は登録有形文化財相当の価値がある。取り壊しはせず、緑政課に移管し民間事業者から提案をつのり、今後の活用方法を定めることとなっている。資料館の展示品は、市内施設に分散して展示・保存する予定。

資料館廃止の理由は、建物の劣化等により貴重な展示品の保管場所として適さないこと、入館者数の落ち込み、眺望を楽しんでいる市民が多く、建物の保存および文化財としての登録申請への希望はあるが、郷土資料館としての再開を望む声は少ないことなど。12月の風入れ時に臨時公開を行う。

○退任の委員より挨拶

都留崎 寿美子 委員

山田 久美雄 委員

●閉会

委：は委員、事：は事務局が発言した内容。